

## コンプライアンスの確立に向けて

今年度も早いもので下半期に入りました。この間、交通事故や道交法違反において大きな事案は起きておりませんが、大幅に減少したともいえない状況です。顕著なのは、最近減っていた「指定場所一時不停止」。どの位置で、どのように停止すれば……。それぞれの学校において、計画的・継続的にコンプライアンスの研修がなされていますが、改めて「教育公務員としての当事者意識」を高めていただきますよう、よろしくお願いいたします。

### 飲酒運転発生事例から考える

ここ数年の間に、岩手県内で発生した事案です。事案が起きた要因、どうしたら防ぐことができたのか、そして、新しい生活様式の中で何を気を付けるべきか等、考えてみましょう。

#### ●自宅での飲酒し、さらに飲むために車を運転して出掛けた事案（万引きで検挙され、酒気帯びも発覚）

コロナ禍で“外で”“集団で”飲酒をする機会はいまほかない実態のようです。自宅での飲酒、飲み会はリモートでならば、「飲酒運転」は起こらない！と考えられそうですが…

- ※ 喉が渇いた、飲み物がなくなったから買い物に行こう、近くのコンビニまでならいいだろう等  
→ 少くくはは大丈夫という身勝手な思いが運転に向かわせるケースがあります。

#### ●「仮眠したから大丈夫」の落とし穴

- 仮眠し目が覚めたことで、酔いが醒めたかと勘違いすることが考えられます。時間や感覚で判断するのではなく、アルコールチェッカーを使用し確かめることも大切です。

STOP!



飲酒運転禁止

### 管内道路交通法違反件数（情報提供）

	R1(年間)	R2(上半期)
酒気帯び運転	1	0
人身加害事故	4	1
30km/h以上速度超過	0	0
30km/h未満速度超過	6	3
一時不停止	2	3
通行禁止違反	2	0
座席ベルト装着義務違反	0	0
信号無視	4	3
横断歩行者等妨害等違反	1	0
その他	3	1
計	23	11

今年度上半期は一時不停止（停止線で停止していない、停止したつもり等）、信号無視（黄色信号での進入、赤色点滅信号での一時不停止等）が多い状況です。しかし、月ごとの合計数は減少傾向であり、一人一人の意識が交通安全につながっているものと考えられます。最近、信号無視での違反が増えています。「黄色信号は止まれ」「赤色点滅は一時停止」等、交差点ルールの再確認が必要かもしれません。

### 体罰0を目指して



○体罰が起こるのは・・・

- ※ 指導のためには必要だ
- ※ 怪我をしなれば少くくはは
- ※ 保護者がいいと言っているから など

- 強い思いをもって指導することは時に大切なことです。しかし、自分の思いどおりにならないことへの焦りの気持ちや、何とかしたいという気持ちから、自分は大丈夫と思っている先生が体罰に及んでしまうケースもあります。
- 暴言というべき不適切な発言、行き過ぎた言動が子どもたちの心を傷つけてしまうケースもあります。

自身の言動、子どもたちとのかかわり方が心身や人格を傷つけることにつながってはいないか・・・振り返ってみましょう。

～不祥事を起こさない起こさせない職場づくりを行い、綱紀の保持を徹底していく～

不祥事と無縁の職場とは・・・

- ①何でも相談できる明るい職場 ②協働の精神で教育にあたる活力ある職場 ③毅然として注意し合える職場

なかなか持てない  
当事者意識

各校ではこんな工夫も・・・

- ☆セルフチェックシートの活用（チェック項目のバリエーション、時期や回数 など）
- ☆意見交流の場の設定（短時間で複数回、事例の要因・発生後の想定等を考える など）
- ☆学校テーマの設定（管内の1例：『教職員一人一人が自分事として考える職員を目指して』）